

開運成就 粟生聖天

真言宗 智山派

定福寺だより



制多迦童子・不動明王・矜羯羅童子

蓮咲くは
笑い地蔵の
在す寺

能傳子

新四国曼荼羅霊場第六十一番

2019年 58号

つちのとい
己亥



ごあいさつ

住職 釣井 龍秀

皆様におかれましては、日々御信心でお寺へ様々にご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。本年は改元の年です。昭和生まれの人々からすれば、平成元年に生まれた子供たちが三十一歳になると思うと、時間の経過が速く感じると思います。同様に平成生まれの方々も数十年後には同じように感じるのだと思います。時間は平等に与えられ、同じように過ぎていきます。一方で、時間の経過の感じ方は、年代や個人差があることは、皆さんもお気づきだと思います。仏教でも時間の感じ方や考え方は、インドと日本では大きく異なります。楽しい時間の経過は速いのに、退屈な時間の経過は遅く感じます。これは時間の経過を意識する頻度が高いほど、時間が長く感じられるからだと言われています。物事に集中したり、楽しい時間、新しいことや物事に、取り組もうとしている時間は短く感じます。

真言宗をはじめ、多くの宗教や祈りの根幹に、「安心して生活をおくりたい」という願いがあります。では、「安心した生活」というのは、どういうことなのでしょう。多くの人に共通するのは、「したいことができる、楽しみをもてる生活」ではないでしょうか。日々の慌ただしい生活の中では、新しい発見や目の前の楽しみを見落としがちです。新しい発見や取り組み、願いを持つということは、人生を豊かにし、その風景を色鮮やかにしてくれるように思えます。歌人であり美術史家であった会津八一が、私塾の学生に規範を示したものに『学規』があります。

- 一、深くこの生を愛すべし（人を愛し、人生を愛すること）
- 一、省みて己を知るべし（つねに自分を見失わないように反省し、謙虚で自己修養すること）
- 一、学芸を以て性を養うべし（学芸の道への精進は、自分自身の人

格の向上を目指すこと）

- 一、日々新面目あるべし（日々、新しい自分であること）

「日々新面目あるべし」とは「様々なことに興味を持ち、日々発見や気づきがあると新しい自分になれる」ということです。これはなかなか難しいことですが、いろんなことに興味や関心を持つと、意識するだけで、新たな発見があり、楽しくなるかもしれません。以前、私が働いていた会社の上司は「日々、様々なことに関心を持ちなさい。道に落ちている小石にも疑問や興味、関心を持ちなさい」とおっしゃられていました。そのような気持ちで生活することで、人生が楽しくなり、豊かになり、仕事にもいい影響があるということとだったと思います。晩年、会津八一は「学規」について「自分のために自分が作って、自分を戒めるものになった」と言っています。己亥の年の本年、私も日々新面目があるように心がけ、生活をおくりたいと思います。

日々新面目あるために、情報や知識をえようと心掛け、それらを頼りに、判断をしなければなりません。「1√5, 000」（1は5, 000より大きい）。この記号の意味をご存知でしょうか。ふつうに考えると「1は5, 000より大きい」なんてことは、考えられません。これは情報に関わる数字です。毎年、世界中で膨大な情報が生み出されています。その情報量は、人類が文字を発明して以来、過去5000年の間に、作られた情報量を超えるともいわれています。現在1年で生み出される情報が、人類が5000年間蓄積してきた情報より多いということです。アメリカの新聞「ニューヨークタイムズ」の1日の情報量は、17世紀の平均的なイギリス人が、一生の中で得る情報量を超えているとも言われています。ではその情

報は、どのように選択し、日々の生活に役立てているのでしょうか。最近まで、豊永郷では先人からの情報を受け継ぐための、時間と場所がありました。両親や両親父母の話や、近所の長老たちの他愛もない話の中に、大変重要な話がありました。様々な話の中から、重要な話や智慧と感ずる話には、価値を見い出していました。そのような価値を選択し、受け継ぐ場であり、他愛もない話ができる環境がありました。しかし、現在ではその環境が、過疎や住民の高齢化、社会的な様々な要因によって衰退してきました。一方で、価値を見出す前に、自分が意図しなくてもTVやインターネットなど、様々な環境から情報を受け継ぐことができる状態になっています。自分が意図せず、膨大な情報を手にいれることができる環境では、価値のある情報、意味のある情報、重要な情報が埋もれてしまう可能性があります。価値のある情報を見つけ、選択し生活に活かすには、結局は各人の判断が重要になります。その判断は、各人の価値観やその人が属している、集落や集団の価値観が影響を与えています。

定福寺は、2023年に開かれて1300年目を迎えます。また2023年は、弘法大師御誕生1250年の年となります。

定福寺は1300年の間、どのように社会が変化しても、新しい環境になっても、その中心に「祈り」がありました。それらは、残された資料や仏具の種類などからうかがうことができます。現在も毎朝7時から長老と住職が、本堂で朝のお祈りをおこないます。豊永郷の人々、大豊町の人々、定福寺に関係する人々、高知県、日本、世界中の人々が「安心して今日一日を過ごせますように」と昔から変わらず毎朝、お祈りをさせて頂いています。また本堂のお祈りが終わると、持仏堂（大師堂）で永代供養されている方々のお祈りをさせて頂いています。「祈りの環境」を支えて頂いていた人々が、定福寺に関係する人々であり、訪れた人々でした。

現在、豊永郷の人口が減少する中で、ここに住んでいた人々の知恵や生活の様子、使っていた道具、考え方、祈りについて知りたい

という多くの方々が、定福寺や隣接する豊永郷民俗資料館を訪れています。おおよそ小学校、高知大学、高知県立大学の課外授業場所にもなっています。2019年からは牧野植物園や山荘梶ヶ森との共同プロジェクト、また徳島県や愛媛県との山間地域をつなぐ「文化の道」構想が、いよいよ本格的に活動をはじめるとの予定です。その拠点の一つとして、定福寺周辺の広い地域が旅行会社や企業の文化事業部から注目を頂いています。

多くの方々に豊永郷の文化を広く知って頂き、また触れて頂くことで感じたことが、人々の楽しみや興味につながり、各人の住む地域で、安心した生活を過ごしていただける助力になればと考えてい



ます。地域の方々には、広く定福寺の施設を様々な目的でご利用いただけるようになればと考えています。

来年度には、現在の駐車場が新しくなり、車いすやベビーカーを利用して境内を散策できるようにいたします。そして2023年には、現在の檀信徒会館を皆様のご協力を得て、再建したいと考えています。一階は、子どもたちや学生をはじめ、多くの方々に豊永郷の価値のある情報を伝える場となり、図書スペース、豊永郷の食の伝統文化を継承するべく調理施設を備えた施設を考えています。二階は、昨年掲載させていただいたように、不動明王、矜羯羅童子、制多迦童子が定福寺にお越しになられます。瞑想や写経、講演会などにご利用いただきたいと考えています。通路は車いすでも利用できる幅となり、多くの方が、一階、二階ともご利用いただける環境となります。

定福寺が老若男女が集える場所となるとありがたいです。更に豊永郷での生活、文化など価値ある情報を日本中の子供たちに伝える場となり、学ぶ場となることが願いです。大阪万博も決定し、多くの国の方々がお越しになられることも考えられます。

皆様方には、何卒ご理解の上、多くの皆様のご助力を賜りますようお願いいたします。

この「定福寺だより」をご覧いただいている多くの方々が、この一年健やかで安心した日々を過ごすことができ、「したいことができる」楽しい生活でありますようご祈念申し上げます。



十善戒

長老 釣井 龍宏

昨年八月、天皇陛下は、七十三年目の終戦の日を迎え、参百壺拾万人の戦没霊、かけがえのない生命を失った遺族と共に、永遠の平和を、お祈り申し上げますと、おっしゃいました。その貴いお言葉を戴き、心が熱くなり、私は、そのお言葉を平和の鐘樓堂の前の掲示板に記録させていただき、世界中の人々、そして、宇宙の、生きとし生ける全てが、平和に包まれます様、涙ながらに、ご祈念申し上げます。私たちが出来る平和への実践は、十善戒の祈りと、その行動に尽きるものと思います。

たしかに、世界の平和は大切ですが、身近に十善戒を唱え、実践して、自分自身のため、家族のため、身近な人々のため、そして、世界の人々の為に伝わって行く様に念じ、ここに、十善戒を、わかりやすく、おとなえし、実践していただける様に、記録させていただきました。願わくは、ご家族一同様が、よく見える所に貼っていただき、自然と、嬉しい時も、悲しい時も、そつと手を合せて下さる事を念じています。そして、お健やかで、お幸福に、お暮らし下さる様心よりご祈念申し上げます。

仏の子供 (讃仏歌)

一、われらは仏の子供なり
嬉しい時も 悲しい時も
み親の袖にすがりなん

二、われらは仏の子供なり
幼い時も 老いたる時も
み親に変わらずつかえなん

十 善 戒

十の良い行いを実践しよう

一〜三はからだの行い、四〜七はこころの行い、八〜十はくらしの行い。

動物であるヒトが十善戒という心の禁を服用することではじめて人になります。	一 不殺生 おやみに生き物を傷つけない あらゆる生命を尊重しよう	二 不偷盗 ものを盗まない 他人のものを尊重しよう	三 不邪淫 男女の道を乱さない お互に尊敬しあおう	四 不妄語 うそをつかない 正直に話そう	五 不綺語 無意味なおしゃべりしない よく考え、話しよう
	六 不悪口 乱暴なことは使わない 優しい言葉を使おう	七 不両舌 筋の通らないことを言わない 思いやりのあることを話そう	八 不慳貪 欲深いことをしない 惜しみなく施しよう	九 不瞋恚 耐え忍んで怒らない にこやかに暮らそう	十 不邪見 まちがった考え方をしない 正しく判断しよう

十善の家
十善の人あり。

手は合掌、心に十善戒
これが幸せの一番の近道です。
東まは 定福寺

平成30年10月26日（金）に定福寺に事務局をおく、土佐豊永万葉植物園保存会が、研修のために牧野植物園を訪れました。会長畑山正親様はじめ約30名様の会員が参加いたしました。牧野植物園では、稲垣典年先生に講演を頂いた後、園内の見学を行いました。講演では、外来種の中でも地域の植物に悪影響のある植物は、取り除き焼くなどの処分をしましょうというような、日頃ではあまり意識しないお話などもお聞きすることができました。

また、高知県下に咲く地域の貴重な花のお話も伺いました。その中で、豊永郷の梶ヶ森や西峰、赤根、三谷、桃原、南大王など



稲垣先生は、「牧野富太郎先生の道を歩く」という企画を行っているそうです。これは各地域に咲く花を、散策できるように、皆で取り組む企画として大月町や佐川町で、すでに行われているようです。貴重な植物が咲く地域が多く残る豊永郷でも、今後行う話が出始めました。決定した際には、多



くの方には是非参加を頂きたいと思っています。

土佐豊永万葉植物園保存会の年会

血脈

「血脈」とかいて「けちみやく」と呼びます。この帖紙（たとうし）をご覧になられた方は少ないかもしれません。私たち真言宗の僧侶は、師匠に弟子と認められ、修行を開始します。加行（けぎょう）という修行が終了し、その後も基本的な修行が一通り終了すると、最後に灌頂という儀式を受けます。この儀式で、師匠から僧侶としての戒を授かり、真言宗の真髓が引き継がれることになります。とても重要な儀式です。儀式終了後に真言宗の法を継ぐものとして許可されます。真言宗の世界に足を踏み入れたこととなり、教えを継ぐものとして認められたこととなります。この儀式が終わわり、許可を得ることで、真言宗のこれまでの師からの流れを引き継ぐこととなります。その流れを「血脈」といいます。儀式では戒が授けられま

費は、千円です。ご入会をお考えの方は、定福寺までご連絡を頂ければと思います。

す。「血脈」を授けられて以降は、身も心も仏の世界に入るということで、戒を授けられた名前にかわります。私も僧侶になる前の名前から変わりました。戸籍から変わるため、免許書も保険証も全て変わります。まさしく家を出る、出家です。これらを一日で行う儀式が、真言宗のお葬儀です。亡くなられた方に、戒を授け、真言宗の大事なことをお伝えし、その後供養を行っています。戒を授けられた名前が戒名です。真言宗では、お葬儀を行ったお寺の住職さんや僧侶が、亡くなった方の師匠ということとなります。各宗派によってお葬儀の意味や考え方は異なります。



聖天尊浴油祈禱は、聖天尊の最上級の御祈禱ということをお存じの方は多いと思いますが、「お聖天さんってどんな仏様？」と思われる方もいるのではないのでしょうか。それも、そのはずです。聖天尊は、秘仏であり、住職の私も拝見したことはございません。聖天尊は歓喜天、大聖歓喜自在天とも呼ばれています。弘法大師が

中国から聖天尊の修法を記した經典を持ち帰り、日本に伝えられました。「天」と書いているように、インドの神様で、インドではガネーシャ（象頭の長）、中国ではヴィナヤカ（障礙除去者）と言われます。聖天尊には、三つの御利益があることで有名です。一つは障害を取り除き、福をもたらす。二つ目は、富や福をもたらす。三

つ目は、学問、智慧を司る神として有名です。

經典の中に、聖天尊は「毘那夜迦山に住み、山中には油の池があり、蘿蔔根（らふくこん）を常に食べている。吉祥果もあり美酒もあった。よってその作法で供える」と書かれています。蘿蔔根とは大根のことで、定福寺でも毎朝、お大根とお酒をお供えしています。

お供え物で、もう一つ大事なものが、歓喜団です。インドの昔の言葉で、モーダカといい、經典には「摩荼迦」と書かれています。インドでは、ガネーシャがお腹いっぱいには歓喜団を食べた話があります。歓喜団は貴重なお供え物です。

定福寺の聖天尊が、一般の人々への御祈禱として修法されはじめたのは、幕末から明治初期だとされています。その理由の一つは、浴油祈禱をする際に必要な仏具や道具が、その時代のものだからです。二つ目は、五台山竹林寺の弟子であった野本進甲師が、定福寺の住職として晋山する時に、師匠

が弟子を思い渡されたという話が伝えられています。野本進甲師は幕末から明治初期の定福寺住職で

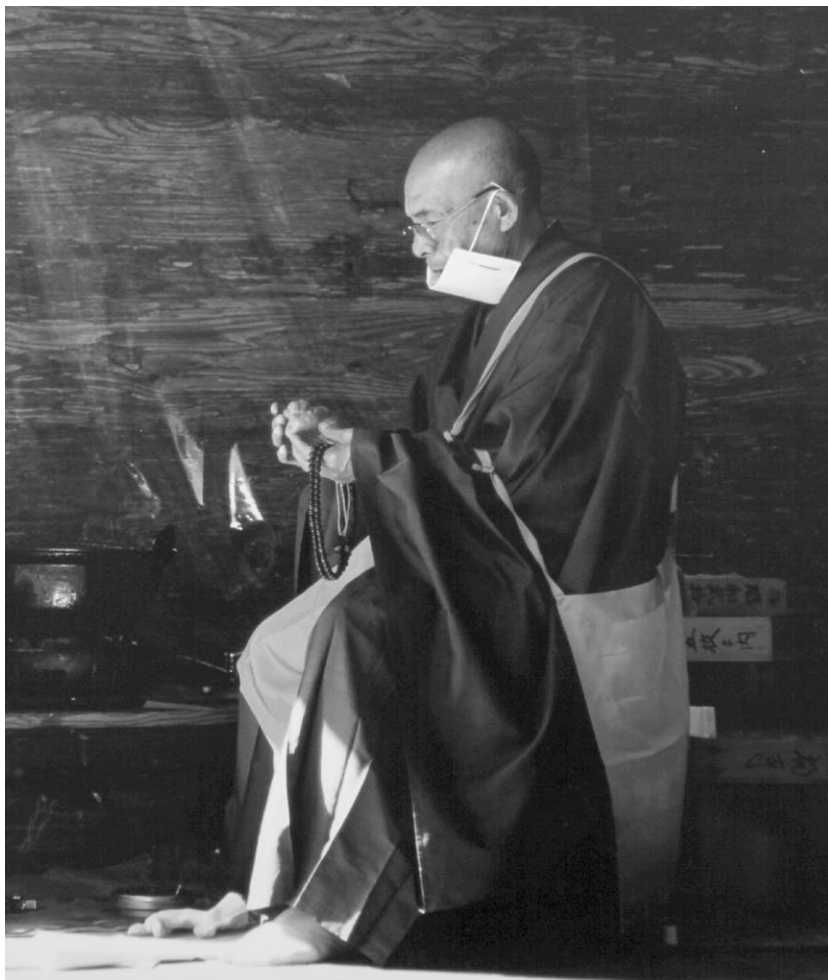


「お団」

した。

しかし、それ以前から、定福寺では聖天尊を安置し、修法していたという記録も残っています。一つは、定福寺の名前です。定福寺は正式には、「栗生山歓喜院定福寺」です。二つ目が、定福寺には聖天尊の古い經典がいくつか残っているからです。

十一月十六日、定福寺では毎年十一月十日から11月16日まで浴油祈禱を厳修いたします。本堂内もいつも皆様がお祈りする様子とは



定福寺の行事

～聖天尊浴油祈禱～ 十一月十日～十六日

異なり、聖天壇には御簾がされ、御札が並びます。この間は、家族全員精進料理となります。修法をする長老は別の棟に住み、食事も別にして一日三回沐浴し修法を行います。この間は、一般の参拝の方々は、本堂内には入ることができません。家族も精進料理になるというのは、修法をする行者を支え、行者に助力するためです。住職は、一日三座の修法の準備やお供えの準備を、マスクをして行います。

お供えで重要なものが、お大根と歓喜団とお酒です。お大根は、多くの信者さんが、浴油祈禱が近づくとお持ちいただいたり、遠くは北海道から郵送頂きお供えさせて頂いております。歓喜団は定福寺で作られます。歓喜団の作り方は、代々定福寺に伝えられています。浴油祈禱が始まる数日前に、歓喜団が作られます。歓喜団を作る前日にまず餡子玉を作ります。これには、七種のお香を混ぜます。当日は、作る前に沐浴をしてから作業に入ります。まず薪で火をおこし、上新粉などをこねてそれを蒸し、臼と杵を使いお餅のように

します。信者さんにお手伝いを頂き、餡子玉を包むようにしながら巾着の形にいたします。最後にごま油で僧侶が衣を着て祈りながら揚げていきます。朝4時ごろから作業が始まり、夕方には終了いたします。

定福寺の御祈禱は、お申込みいただいた日から十一月九日まで毎朝行います。定福寺の聖天尊は障礙を除くことから、開運福寿や家内安全、当病平癒の御祈願、福をもたらず富の神であることから、商売繁盛、事業繁栄の御祈願、智慧の神であることから、合格祈願、学力増進の御祈願が多いです。

十一月十六日は、定福寺の境内の紅葉が美しい時期です。多くの参拝の方がお越しになられます。是非、皆様も一度お越しください。

聖天尊の御祈禱は、電話やFAXなどでも受付をいたしております。



御奉仕、寄進への感謝

年間の行事（おまつり）の前後や年末年始には、初穂米、干物、砂糖、野菜、生花等々が届けられます。ご信心な方々には、行事ごとにさしあげるお食事の準備を始め、当日のお手伝いや受付をしていただいています。また責任役員様をはじめ、各地区世話人様、節分世話人様、詠歌会の皆様には多大なご尽力をいただいております。お蔭様で、各行事も厳粛で盛大に行われています。

先祖菩提 仏法興隆のため謹んで御礼申し上げます。

永代日牌供養新奉加ご芳名

永代日牌供養とは、当山持仏堂（弘法大師、興教大師ご宝前）にお位牌を安置し、毎朝仏飯とお茶を供えて読経回向し、春彼岸の入りには年忌を迎える仏さまの卒塔婆を建て、年忌ごとに、先祖代々の場合は五年ごとにご案内し、ご供養申し上げます。五十回忌の後も、お位牌は末代安置され、ご供養してまいります。

永代納骨は、万霊供養塔にお骨を納めて永代供養を申し上げます。

一、施主	室戸 真浄	丁	菩提也	藤沢真浄 様
一、施主	横浜市（元大久保）都築家永代納骨		菩提也	三宅博子 様
一、施主	桑名市（元怒田） 夫 益	丁	菩提也	小林敬子 様
一、施主	高知市 母 末子	丁	菩提也	西村満恵 様
一、施主	新居浜市（元佐賀山） 父 利晴	丁	菩提也	三谷高秀 様
一、施主	高知市 母 マサコ	丁	菩提也	三谷孝子 様
一、施主	三谷家永代納骨 父 芳穂	丁	菩提也	松田近子 様
一、施主	西土居 都築家先祖 夫 武晴	丁	菩提也	都築恵子 様
一、施主	長男 秀勝	丁	菩提也	
一、施主	柚木 妻 厚子	丁	菩提也	松田尊昭 様
一、施主	岩原 長男 明久	丁	菩提也	下村和鹿子 様

祠堂料志納ご芳名

祠堂料とは、亡き仏さまへの報恩謝徳と菩提寺の興隆を念じて、奉納される浄財です。そのご芳志の高徳にお答えして、菩提寺より、亡きみ仏さまに、院居士、院大姉、居士、大姉の法名が届けられます。

一、施主	土居番 母 静香	丁	菩提也	小松健一 様
一、施主	柚木 母 静恵	丁	菩提也	前田幸太郎 様
一、施主	高知市 父 正則	丁	菩提也	北窪正臣 様
一、施主	八畝 夫 啓志	丁	菩提也	信高春代 様
一、施主	柚木 妻 厚子	丁	菩提也	松田尊昭 様



永続米（護持会費）の納入についてのお願い （平成31年度分）

町内檀信徒の皆様は、各地区総代（護持会代表）・世話人様のお世話により、一月中に納入されています。町外檀信徒の皆様は、振替用紙にてお納めくださいますようお願い致します。尚、納められた浄財は、私たちの総本山智積院への負担金及び定福寺の護持興隆の為に使用させていただきます。（振替用紙をご利用ください）

郵便口座 口座記号 01620-7

金 1,500円以上也

口座番号 12426

加入者名 宗教法人 粟生山 定福寺

2019年 平成31年度年回表

一周忌	平成30年
三回忌	平成29年
七回忌	平成25年
十三回忌	平成19年
十七回忌	平成15年
二十五回忌	平成7年
三十三回忌	昭和62年
五十回忌	昭和45年
百回忌	大正9年

以下50年目ごと

土砂加持法要ご案内

四月一日（月） 午後二時（本堂）

法話 十二時より

県下真言宗寺院様のご出席をいただき、新仏さまのご加入とご先祖さまのご供養が厳修されます。昼の十二時より本堂に於いて、御法話を頂きます。

どうぞご参詣ください。尚ご先祖様の永代供養をご希望の方は、お申込みくださいます。

定福寺のお線香と散華

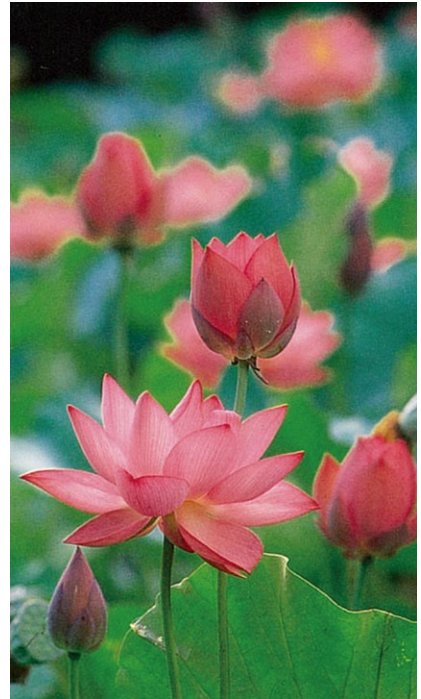
お香は松栄堂、箱は長老二女の高田明が描き、文字は、先々代義光和尚が書いた定福寺のお線香ができました。また四月一日の土砂加持法要で僧侶が撒く散華が造られました。表を高田明、裏を長老龍宏が文字を記しています。

○お線香 一、〇〇〇円
○散華 一、二〇〇円

（12枚入り）

定福寺開創	1,295年前
本尊造立	867年前
本堂再建	239年前

仏誕	2585年
西暦	2019年
明治から	満151年
大正から	満107年
昭和から	満94年



はちす（はす）

スイレン科（草本類）

多年生の水草。名前は、実が蜂巢に似ていることに由来する。

花期は6月～8月。

写真 岡田憲佳

一九五一年三月、千葉県検見川東京大学農場の弥生遺跡から、三粒の蓮の実が大賀一郎博士によって発掘されました。二千年以上地下に眠っていた蓮の実の一粒は五月に発芽し、翌年七月には淡紅色の美しい花をつけたのです。生命の神秘を伝えるこの眠りから覚めた古代蓮は、博士の名を取って大賀蓮と呼ばれています。一九五四年には千葉県の天然記念物に指定されました。

土佐豊永万葉植物園（定福寺境内）には、一九七八年に三株が寄贈されました。当時の植物園顧問である門田久男氏は万葉植物の代表格である蓮を育てたいと願い、各地を探し続け、大賀博士の愛弟子である和歌山県御坊市の阪本祐二氏より分けていただきました。その年の夏には、早くも第一輪が開花し、以来毎年開花を続けています。

蓮はインド・北西カシミールに地方原産の植物です。

インドで起こった仏教において、蓮は仏の心（慈悲の心）を表したものと考えられました。泥の中から現れる綺麗な花は、俗世間で生活する我々の心に慈悲の心（他を思いやる心）が芽生える様子と同じだと考えられました。多くの仏たちは蓮華に座す姿で現されています。花弁を八枚に広げた蓮華の形は、インドでは心臓にも喩えられてきました。

弘法大師により平安時代に御請来された胎藏曼荼羅の中心は八枚の紅蓮華の花弁で現されています。これは悟りそのものを現しています。

開花期は六月下旬から八月上旬。早朝から昼ごろまでが見ごろ。夏の朝霧の境内に、静かに咲く大輪の大賀蓮の花は清浄な香りを漂わせて、幻想的で美しいものです。

昨年一昨年と、県立農業大学校長川村功さんの指導の下で、土壤改良を行ってきました。八畝西村時宗さんをはじめ、地元の方々や御縁の方々のお力添えで、蓮根をあげたり草を引いたりしたいへんな作業を行っていただきました。仁王門下の曼荼羅池でも開花時期は遅れましたがたくさんの元気な蓮の花を見ることが出来ました。蓮は、本来は毎年蓮根を起こして、古い蓮根などを取り除き、土も新しくして植え替えをするといのですが現状では難しい状況です。土壤改良や植え替えのお世話になりました皆様にご心より御礼を申し上げます。有難うございました。

ひさかたの雨も降らぬかに蓮葉に^{はちすは}停^{たま}れる水の玉に似たる見む

（万葉集巻一六 三八三七）

雨が降らないかなあ。蓮の葉にたまった水が玉のようになるのを見たいものです。「ひさかたの」は雨の枕詞。万葉集に蓮の歌は四首。万葉の時代にもこれを池に植えて花を観賞していたようです。

豊永郷を知ろう①

現大豊町の北西部を除く大部分が豊永郷でした。その中心は、現豊永駅周辺の地域でした。

「豊永郷小村三十八 東限阿州、西限本山、南限穂岐山、北限阿州、東西八里余南北五里許、戸凡千三百、其土黒赤、相伝、昔小笠原越後ト云者領豊永郷、後属秦元親、更氏豊永」『土佐州郡志』とあります。一五八八年の豊永郷の地検帳には、十四の名・村からなり、田分八十四町五反三十三代二歩三尺、畠分六十一町、屋敷は八百二十二、寺四、坊一、堂床二十九とあります。下ノ土居村、川渡村と杖立山からの往還道が通る中屋平村には、多くの長宗我部氏の家臣が住んでいたようです。下ノ土居や大平村には、小笠原越後守の住居や別館があり、下ノ土居の東山には豊永城があったと記されています。江戸時代は、下ノ土居に大庄屋があり、豊永郷すべての産物の生産量、田畑の広さ、人口などが記された『豊永郷差出控』が貴重な資料として残っています。

▼参考資料／山本大監修 一九八三年『高知県の地名』平凡社



定福寺の諸仏像（県指定12体 ○印）・堂宇

定福寺本堂

- 阿弥陀如来像(本尊)
- 薬師如来像(脇士)
- 地藏菩薩像(脇士)
- 不動明王像
- 毘沙門天像
- 大聖歓喜天像
- 十一面観音像
- 不動明王像
- 矜羯羅童子像
- 制吒迦童子像
- 大黒天像

宝物殿

- 六地藏（笑い地藏）
- 十一面観音菩薩（定福寺奥ノ院）
- 聖徳太子立像
- 不動明王座像
- 弘法大師座像（御影堂）
- 毘沙門天

持仏堂（大師堂）

- 弘法大師座像
- 聖観音立像
- 地藏菩薩立像
- 行基菩薩座像
- 興教大師座像

〈国登録有形文化財〉 本堂、持仏堂(大師堂)

境 内

- 弘法大師修行像
- 十三仏像
- 七福神像
- 四国 88ヶ所お砂踏
- 仁王尊像
- 稚児大師像
- 薬師如来像

平成31年 当山年中行事

行 事	日 時
修 正 会 初護摩祈祷 大般若経転読	1月1日 午前0時より
修 正 会 大護摩祈祷 大般若経転読	1月2・3日 午前9時より
七 福 神 ま つ り（福笹授与・七草がゆ接待）	1月7日 11時
節 分 会（厄はね歳とり）大護摩祈祷	2月3日 13時
檀 信 徒 年 回 忌 先 祖 総 供 養（彼岸中日）	3月21日 13時
土 砂 加 持 法 要（先祖菩提総供養）法話 12時より	4月1日 14時
加 持 ヶ 峰 奥 ノ 院 大 師 縁 日 大護摩祈祷（旧暦3月21日）	4月25日 13時
花 ま つ り（大念珠まわし・百足除札授与・甘茶接待）	5月12日（旧暦4月8日）10時
蓮 ま つ り（万霊供養）土佐豊永万葉植物園保存会主催	7月初旬～8月中旬
諸 病 き ゅ う り 封 じ 祈 祷 土用の丑	7月27日 9時
お 盆 総 供 養（迎え火）	8月13日 9時
施 餓 鬼 供 養（千体地藏流し・送り火）東土居川原	8月16日 16時
も み じ ま つ り	11月初旬～12月初旬
粟 生 聖 天 結 願 祭（開運福寿）	11月16日 9時～14時
除 夜 の 鐘	12月31日
粟 生 聖 天 ご 縁 日	毎月 1日・16日
詠 歌 会（午前10時～12時）	毎月 2回

御法事を営まれる際はなるべく早目にお申し込みくださいますようお願いいたします。
（友引は葬儀、法事は執り行いません）お塔婆は1本二千円です。

発 行 所

真言宗智山派
宗教法人 粟生山 定 福 寺
〒789-0167 高知県長岡郡大豊町粟生
☎ 0887 (74) 0301(代) FAX 0887 (74) 0302
<http://www1.quolia.ne.jp/~jofukuji/>

郵便口座 口座記号 01620-7 口座番号 12426
加入者名 宗教法人 粟生山 定福寺

住 職 釣井 龍秀
長 老 釣井 龍宏
法類総代 竹林寺住職
責任役員 海老塚和秀
責任役員 下村 堯基
責任役員 都築 康博
地区護持会 小笠原俊一
遍照講詠歌会議員 代表会 一同

平成三十一年 己亥